

無農薬栽培 | ITで守る

北 区

同法人代表理事のバハラム・イナールさん(53)は、中央区北野町3は、IT出身で、約30年前に来日。長男の食物アレルギーをきっかけに、食の安全に関心を持つようになった。2003年に同法人を設立「周囲の環境保全を考えると農薬は使いたくない」と北区大沢町で無農薬農業を始めた。

害虫や病気の被害を受ける条件を調べるため、ITによる農業の技術革新を研究する同大学院大のマルコン・シャンドル教授(69)は情報システム学に協力を求めた。

4月下旬にセンサーや通信装置を設置。センサーで温度と湿度、気圧、日射量、水位を測定し、データを専用のコンピュータに送って蓄積する。短くても半年は実験を続け、データの変化と病気や害虫発生との関連関係を調べる。

イナールさんは「環境に優しい農を目指し、IT機

無農薬栽培の田んぼは畑で病気や害虫が発生する条件を探ろうと、NPO法人「ピース&ネイチャー」(中央区北野町3)と神戸情報大学院大学(同区加納町2)が、北区大沢町の田んぼでIT

機器を使った実験に取り組んでいる。温度や湿度などの環境変化をセンサーで測定しデータを収集。異変を素早く察知する発生条件を割り出し、未然に防ぐ対策を考えていく。(村上真宏)

NPOと大学教授が協力

田で温度など測定 害虫、病気と関係調査

器導入の取り組みが広がるよう協力したい」。シャンドル教授は「後世にも役立つようITと農の融合を図りたい」と意気込む。



田んぼの環境変化を測定するIT機器を設置したバハラム・イナールさん(右)とマルコン・シャンドル教授(北区大沢町)